

生葉を利用するクモ

中 平 清

(高知市一宮)

Spiders making use of living leaves on their webs and dwellings.

By Kiyoshi NAKAHIRA

ATYPUS No. 14 に塵埃や草木の枯葉を利用するクモについて述べたが、クモの中には草木の生葉を利用しているものが相当多く観察される。

それを利用状態により大別すると「住居として利用」「卵室として利用」となる。

以下述べるものは、自分で直接観察したものに限定しておく。諸賢の観察記事にも多少接するが、それらは、将来「小生の考察のまとめ」をする時引用させていただくつもりである。研究に対し種々御指導をいただいた八木沼健夫氏に深甚の謝意を表する。

〔住居として利用するクモ〕

1. アオオニグモ *Araneus pentagrammicus* (KARSCH)

2. ビジョオニグモ *A. mitificus* (SIMON)

網はいずれも *Zygiella* type である。網の一端にある木の葉の表に蛛糸で天幕を張り、その下（葉と天幕の間）に常住している。住居幕は網の張りかえごとに糸がつけ加えられるので、次第に厚くなる。

網と住居は一本の糸（みち糸、呼網）によって連絡している。網にかかつた獲物による振動は呼網によつてクモに伝わる。クモは呼網を通つて網にとび出して獲物を捕え、住居に持帰つて食う。卵のうは住居内には置かない。

3. ヌサオニグモ *Araneus ejusmodi* BOES. et STR.

夕方円網を張つて、こしきに占座して獲物を狩り、翌朝網をたたんで、網の一支点にある草木葉にひそんでいる。

そこには、アオオニグモほど立派ではないが、蛛糸による天幕が張つてある。天幕はやはり葉の表面に張られてある。

夜間狩りをするクモであるが、昼間でも時に（小雨、曇天の日）網をたたまずに住居にひきあげていて獲物が網にかかると、とび出して来て捕える個体が相当多い。食事はこしきで行う。

4. キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea* BOES. et STR.

これの張る網には、円網、*Zygiella* type 及び両者の中間型（即ち円網のこしきから一本の呼網が住居とした草木葉に続いているもの）の三つの型がある。

前者に於ては網の一支点に、後二者に於ては呼綱の一端にある草木葉に糸を粗目に張つて住居としている。個体によつては、粗目なものでなく、小さいが精緻な円網であることがある(図⑩)。昼間こしきに占座して獲物を狩るクモであるから *Zygiella* type の網は少し変な感を起させるものではあるが、おもしろい習性である。

昼間でも住居にひきあげていて、獲物がかかると、とび出して来て捕える個体もある。食事はこしきで行う。

5. オニグモ類 *Araneus*, *Neoscona* spp.

前記1~3以外のオニグモ類にも、網の支点にある草木葉に粗目の糸を張つて昼間の住居としているものが多い。

ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (KARSCH) サツマノミダマシ *N. scylloides* (BOES. et STR.) ヘリジロオニグモ *N. subpullata* (BOES. et STR.) ドヨウオニグモ *N. doenitzii* (BOES. et STR.) 等に於て明瞭であり、特にドヨウオニグモが稻の葉を屋根形にまげて蛛糸を張つたものなどはヌサオニグモのそれと較べて見おとりのするものではない。

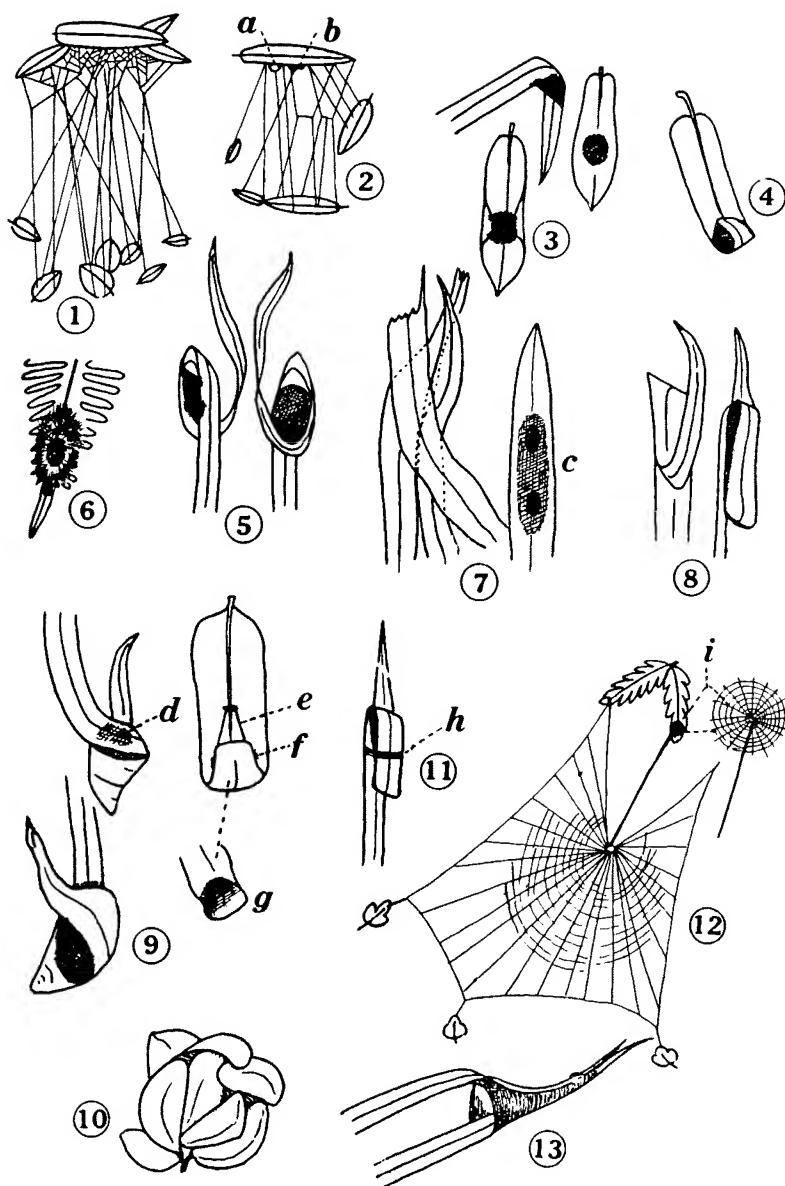
しかし、アオオニグモ、ビジョオニグモ、ヌサオニグモの住居は天幕を張つたものであるのに対して、多くのオニグモの類、或はコガネグモ類のは葉裏に粗雑に糸を張つて、脚のひつかかりの役目を果すにすぎない感じのするものであることには注意しなければならないと思つている。

オニグモ類の製作物は、まことに粗末であり、開放的で「住居」というには多少気がひけるが、やはり草木葉にとりつけられた休息の場所、即ち住居とみなしたい。

このように記述してくれば、全てのクモが昼間(或は夜間)ひそんでいる草木葉、又は物かけは全て住居であるとしなければならないが、本稿に於ては、標題にそつたもので、或程度蛛糸による加工が明瞭なものに限定しておく。

図の説明 Explanation of Figures.

- ① ナリヒラグモ *Theridula* sp. の網
- ② クロナリヒラグモ *Theridula* sp. の網…a. 卵のう b. クモ
- ③ ササグモ *Oxyopes sertatus* の卵室
- ④ ハナグモ *Misumena tricuspidata* の卵室
- ⑤ シロアズチグモ *Thomisus albus* の卵室、表裏
- ⑥ シヤコグモ *Tibellus tenellus* の卵室
- ⑦ オスクロヘエトリ *Hyctia magister* の卵室…c. 卵のうをつけた葉。
- ⑧ ハマキフクログモ *Clubiona japonicola* の卵室
- ⑨ カニグモ一種 *Thomisidae* gen. et. incert. sp. の卵室
 - 左…禾本科植物の葉を利用…d. 母グモの占座點、あら目に糸を張つてある。
 - 右…ゼンマイの小葉を利用…e. 中肋にひつぱりつけた糸。
 - f. 倒面の止糸。
 - g. e.f の糸を切つて卵のうをおさめた部分を示す。
- ⑩ ツユグモ *Micrommata rosea* の卵室
- ⑪ ウスキショウジョウグモ *Singa theridiiformis* の卵室…h. 卵室を結んだ帶。
- ⑫ キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea* の網及び住居…i. 小型円網状の住居。
- ⑬ カマスグモ *Thereticopis severa* の住居(脱皮室)



6. 一時的な住居

図⑩は、カマスグモ *Thelcticopis severa* (L. KOCH) が脱皮する時に作った住居である。禾本科植物の葉2枚を寄せて作った室である。

フクログモ類やハエトリグモ類なども、脱皮の時だけに使用する住居を作る習性がある。

〔卵室として利用するクモ〕

1. ハマキフクログモ *Clubiona japonicola* BOES. et STR.

このクモが、禾本科植物の葉をちまき状に巻いて、その中に卵のうをおき、母グモ自身もその中にとじこもつてていることは、世間周知のことである。(図⑧)

2. ウスキショウジョウグモ *Singa theridiformis* BOES. et STR.

図⑪。成株未採集であるが八木沼氏によれば上記クモの由。形はハマキフクログモの卵室と同じであるが、使用する植物は、現在までの観察では、チガヤ *Imperata cylindrica* BEAUV. var. *Koenigii* DURAND et SCHINZ. の葉にかぎられている。

とにかく小さなクモが葉先を巻いて卵室とし、外側には蛛糸でていねいに帯をしめてあることはおもしろい習性である。帯は産卵後つけるものだから、親グモは室内にはいない。

3. ツユグモ *Micrommata rosea* (CLERCK)

マルバハギの梢葉を寄せて球状の卵室を作つたり、笹の葉でちまき状の卵室を作つたりする。

母グモも卵室内にいて、卵のうを守つている。(図⑩)

4. オスクロハエトリ *Hyctia magister* (KARSCH)

多くの場合、禾本科植物の葉を3枚ほどひき寄せて、袋状に縫り合せ、この中に交合、産卵を行う。この室の一方は外に開いている。(図⑦)

デニツツハエトリ *Hasarius doenitzii* KARSCH も同じ習性を有する。

5. カニグモ一種 *Thomisidae* gen. et sp. incert.

図⑨は、カニグモ科の一種が、ゼンマイの小葉及び禾本科植物の葉で作った卵室で、母グモはその外側表面に乗つて見張つている。

6. その他。

カニグモ類の多く、或はササグモやハエトリグモの仲間が、葉上や葉を折りまげて卵のうをとりつけたものは、開放的な構造で「室」とは言いにくい様ではあるが、やはり卵室とするのが至当である。(図③④⑥⑥)

〔特殊なものとして〕

1. ナリヒラグモ *Theridula* sp. (= *Narihira delicata* KISHIDA ?)

1枚の木葉裏から下方にのびる不規則網を営む。クモはその葉裏に占座し、食事も産卵もそこで行い、孵化当時の子グモは母グモと共に居る。(図⑪⑫)

下方にのびる不規則網は消略し、葉裏に糸を簡単に張りまわしただけで、結構狩をしている個体も多く見かける。